

さんかく **見聞**



男女共同参画フェア

6月25日(土)に小山市男女共同参画都市宣言15周年記念の男女共同参画フェアが開催されました。オープニングでは、かわいらしい歌声が披露されました。開会式、ワーク・ライフ・バランス推進事業者認定交付式に続き、京都大学大学院教授の伊藤公雄氏の「みんなで学ぼう『今どきの男のキモチ』と題した講演がありました。

時代ごとに日本とヨーロッパを比較しながら、話が進められました。1000年前の日本では男性が食事を作り、有名な女性作家が活躍するというような時代でしたが、この様なことはヨーロッパでは皆無でした。幕末にはイクメン男性がたくさんいて、近代日本は農業や自営業が中心で、女性も多くは働いていました。

1970年前後に生じた世界の変化に日本はヨーロッパと別な選択をしました。それ以前のヨーロッパは性差別に満ちていました。1960年ころから女性解放運動が始まり、国際不況も背景にして男女平等の考えが広まりました。日本は経済成長の時期で、男性は長時間労働、女性は家事労働と性別による分業が始まりました。70年には高かった女性の労働力も2000年には他国より低くなっていました。

1990年になると『男らしさ』の呪縛により、男性自身の問題が顕在化して、働き盛りの過労死や自殺なども起こるようになりました。女性の労働も子育てをしながらなので、低賃金のパートなどでしか働けない問題も出てきました。

男女ともにいろいろな問題を考えながら、社会感覚と生活のバランスのとれた多様性と人と人の絆に支えられた男女共同参画が重要であるという話は印象的でした。

最後は「私の歩む道」として3人の女性が話されました。松本春江氏(NHK宇都宮放送局長)、弥永理絵氏(宇都宮保護観察所長)、紀恵理子氏(静岡少年鑑別所長)です。

3人とも道は違いますが、キャリアを積み生き生きと仕事をしておられる様子が伝わってきて、さわやかな気持ちを胸に会場を後にしました。

秋田県の教育

子どもたちの学習能力の向上を図った秋田県の教育が注目を集めています。

県は、少人数学習推進のために、多額の県費をかけ、関係機関との協力も得ながら成果をあげています。また学校の開放により、一般市民との交流活動が活発化し、地域で子どもを育てるといった土壌を形成しています。そして注目されているのは学校教育だけでなく、家庭教育のことです。家庭教育の安定により、家庭学習の習慣が根付いているのも一因と考えられます。秋田県は2世代・3世代同居の家庭が多く、若い世代は働いて祖父母たちがこどもの学習の手助けをしています。そのことにより、子どもたちは規則正しい生活をしているようです。そして保護者も教育に大変関心が高く、学校行事には女性だけでなく男性の出席率も高いようです。

これら全部取り入れることは無理であっても、秋田県にならい地域を含めみんなが関心を持ち、子どもたちの未来を明るくしたいものです。